

## 共同研究の募集について（随時）

対馬自然保護官事務所作成

### 1. 野生復帰した傷病個体のモニタリングに関する技術開発

対馬野生生物保護センターでは、交通事故や錯誤捕獲等により保護されたツシマヤマネコを治療し、野生復帰可能と判断された場合には野外に放獣しています。放獣に当たり生存に一定の懸念がある場合等には、首輪型発信機を装着しラジオテレメトリー調査を実施しています。

#### (1) 首輪型発信機の改良について

ラジオテレメトリー式の首輪型発信機は、軽量（20g程度）、長寿命（400日程度）、リアルタイムでの追跡がしやすいといったメリットがある一方で、GPS型と比較して、①定位地点の客観性が低い、②個体に近づく必要があり調査に労力がかかる、③個体に近づくことによる個体への悪影響の懸念、④個体を見失いやすい（ロストしやすい）、といったデメリットがあります。このため、特に放獣後なわばりを確保するために動き回る一ヶ月程度について、GPS型首輪発信機の導入を検討していますが、重い、低寿命、離島ゆへの携帯通信網の脆弱性、定位したいとき（保護作業を行う際など）に定位できない、といった課題があります。このため、上記の課題を解決した以下の特徴を持つ技術基準適合証明を受けたGPS型首輪発信機の開発が求められています。

- ・重量 40-60g 程度
- ・2カ月以上の電池寿命
- ・スターリンク回線等の衛星通信の利用
- ・ラジオテレメトリー方式との併用

想定される研究分担

共同研究者：機器開発

当所：各種情報提供、飼育下・放獣個体への導入、機器の保管

#### (2) 健康状態の評価について

追跡を実施している個体については、健康状態をモニタリングし、必要に応じて保護する必要があります。怪我や跛行といった外形的な特徴は自動撮影カメラによるモニタリングが可能な一方で、餌をほとんど取れておらず衰弱しているような場合、外形的な判断は極めて困難です。このため、例えば誘因餌により個体を体重計に誘因し、捕獲せずに体重測定を行うことができる機器の開発が求められています。

想定される研究分担

共同研究者：機器開発

当所：各種情報提供、飼育下・放獣個体への導入、機器の保管

## 2. ツシマヤマネコに配慮したくくりわなの開発

ツシマヤマネコの主な減少要因として、ニホンジカの増加に伴う森林環境の荒廃が指摘されています。対馬では年間1万弱のニホンジカが捕獲されており、多くはくくりわなによって捕獲されており、これまでくくりわなによるツシマヤマネコの錯誤捕獲が現在までに14件確認されています。そのうちの約半数は野生復帰が困難な怪我を負い、終生飼育となっています。

錯誤捕獲を回避するため、当所では、①作動重量の設定を重くする、②作動した時のくくり部位の最小直径を3mm程度にする、③くくり部位に保護カバーを取り付けることなどを推奨していますが、既製品で作動重量の設定を正確かつ容易にできるものが限られることや、最小直径を大きくするとわなにかかったシカやイノシシが止めさし時にわなから脱出し狩猟者に危険が及ぶ懸念や、シカやイノシシの幼獣が捕獲できなくなってしまうこと、保護カバーは回転や破損で脱出されてしまうおそれがあることなどが課題として挙げられます。このため、上述の課題を解決したくくりわなの開発が求められています。

想定される研究分担

共同研究者：わな開発

当所：各種情報提供、飼育下個体を用いた計測等、わなの保管

連絡先

対馬野生生物保護センター 皆藤 宛

RO-TSUSHIMA@env. go. jp